



5月は心や体に疲れがでて、けがをしたり、体調を崩しやすい時期でもあります。規則正しい生活をして、元気いっぱいにご過ごせるようにしましょう。

今月は薬についてのお話です。



病院でもらうお薬について、充分内容を確認していますか？

咳や鼻水などの症状を抑える薬・熱を下げ痛みを抑える薬・細菌に対する抗生物質等、一度にたくさんの薬が処方されます。症状を抑える薬なら保護者の判断で症状が治まった時点で中止できることがあります。解熱剤は、処方されてもぐったりしていなければ飲ませる必要がないこともあります。抗生物質のように、元気になったと思っても処方された分は飲み終わるまで続ける必要のあるものもあります。主治医に聞くタイミングがなかったら、薬剤師も相談にのってくれるので確認しましょう。

① 薬の目的

どの症状に対して出されたのか、何を目的にしているのか。



② いつまで飲むのか

症状がおさまったらやめてもいいのか、最後まで飲みきらなければいけないのか。

③ 服用時の注意

飲み方や、飲む時間、いっしょに飲む飲料についての注意。飲み合わせによっては混ぜると苦くなることもあります。

④ 起こるかもしれないこと

中には便や尿の色が変わる薬もあります。便秘になりやすかったり、逆に便が緩くなったりする薬もあります。また、眠気やのどのかわきなどの副作用が出ることもあります。あらかじめ知っておけば、安心して使えます。

⑤ 次にいつ受診すべきか

症状がおさまったら来なくていいのか、治っても受診が必要なのか、確認しておきましょう。

<飲ませ方>

- * シロップはスポイト、スプーンなどを使って飲ませます。
- * 粉薬は数滴の白湯などで練って団子状にし、赤ちゃんの上あごやほっぺの裏側につけ、すぐに母乳やミルクを与えます。舌先にのせると、はき出してしまうことがあるので避けて下さい。
- * ミルクで溶かしたり主食に混ぜたりすると、次回から嫌がるようになることがあるので避けましょう。粉薬を水に溶かしてコップで飲むと量が増えるので飲むのに苦労します。出来るだけ少しの量で終われるよう配慮しましょう。
- * 食後の薬でも、食前に服用しても問題ないことがあります。食後ではお腹がいっぱいで服用が難しくなる場合は、医師に相談しましょう。

